

西海市総合教育会議 議事録

招集年月日	平成27年10月8日		
招集の場所	大瀬戸コミュニティセンター 2階第1会議室		
開会及び閉会	平成27年10月8日(木) 開会 午後1時 閉会 午後3時50分		
会議構成員の 氏名及び出欠 の状況	市長	田中 隆一	出席
	教育委員長	北島 淳朗	出席
	教育委員	川南まつみ	出席
	教育委員	寺本 温	出席
	教育委員	福田 郁代	出席
	教育長	澤田 洋子	出席
	職務のため出席した者 の職氏名	教育次長	中島 義則
		教育総務課長	山添 秀士
		学校教育課長	山野 和則
		社会教育課長	福田 龍浩
		政策推進課長	玉本 泰之
		政策推進課係長	坂本 章
		総務部長	富永 敬二
		総務課長	森林 良行
	総務課行政班長	田口 春樹	

会議に付された事件及び内容	西海市総合戦略の体系について
	西海市の現状における教育課題について
	市内高等学校への支援について
	その他
会議の経過及び結果	
総務課長 市長 総務課長	<p>(開会) 開会に当たりまして、田中市長より開会のご挨拶をお願いします。 (市長開会あいさつ) 本日の議事として3項目設定しています。資料の1ページに記載しています。</p>
政策推進課長 政策推進課係長	<p>早速議事に入ります。「西海市総合戦略の体系について」を議題とします。 政策推進課より説明いたします。</p>
総務課長	<p>(「まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」、「西海市人口ビジョン」、「西海市まち・ひと・しごと総合戦略」について、資料に基づき説明) 「西海市まち・ひと・しごと総合戦略」については、特に「教育」に関することを重点的に説明してもらいましたが、教育長補足説明はありませんか。</p>
教育長	<p>「西海市まち・ひと・しごと総合戦略」の教育行政の役割として、私どもは、やはり、子どもたちが、地域への愛着を育て、地域の未来を担ってくれる子どもたちの育成ができること、地域の教育環境が充実することによって、そこに定着し、子育てをしていくような環境を通じて市外の方々が西海市の教育を求めて入り込んでいただくような、そのような視点で総合戦略に施策として盛り込ませていただきました。</p>
総務課長 〇〇委員	<p>ご質問も含めて、委員さん方からご発言をお願いします。 人口ビジョンの31ページ、2040年、2060年のそれぞれの年齢階層のうち、一番下が年齢となっている意味はどういうことですか。ずれているだけということですか。</p>

政策推進課係長	<p>ご指摘のとおりずれていますので、それぞれの年齢階層を1行下に移動していただいて、一番上は90歳以上と修正させていただきます。</p>
〇〇委員	<p>続いてお聞きしたいんですが、日本創生会議の推計が若干厳しい見方をしているのは、20歳から39歳の女性の人口に着目をして、そこから合計特殊出生率を考えた結果厳しくなっているかと思うんですが、そう見たときに、西海市自体もそのパターンに陥っていて、人口ビジョンの6ページのところの、先程のご説明のと通りの15から19歳が20から24歳になる5年間、ここがもっとも減少が大きいわけですよ。20歳なり24、5歳で残っていれば、ある程度残っているんです。この間が最も人口減が大きいとなったときに、ご説明をお願いしたいんですが、このところの人口をどう高めていくかという部分が大きなポイントだと思うんですよ。このポイントに対応した総合戦略の施策はなんですか。</p>
政策推進課係長	<p>まず、総合戦略6ページの安定した雇用創出ということで企業立地、9ページの市外への流出抑制と市外からの流入を促進するということです。人口ビジョンの分析にはなかったんですが、西海市内の大きな企業として大島造船所、ダイヤソルトや松島の火力発電所とかありますが、それらの従業員の方々が、市外に住まれている方が多いということで、その方々にどうしたら定住していただけるのかという視点で、住居が足りないんじゃないかとか、教育環境に課題があるんじゃないかという視点で、従業員の方々にアンケートを実施しました。そのアンケート結果を分析し、施策に反映しています。</p>
〇〇委員	<p>また、市内中学生の市内高等学校への進学率は約40パーセントですが、市長より当面50パーセントを目指すとの考え方も示されましたが、人口ビジョンからも分かるように、その年代の減少率が高いということもありまして、そこを早急に対策を立てなければならぬと考えており、県教委との関係もありまして、まずはそういった会議を作りまして、協議をしていただくところから始めたいと考えており、先程説明しました市内高等学校活性化協議会（仮称）として施策に盛り込ませていただいています。</p>
〇〇委員	<p>日本創生会議事務局長の木下さんから詳しくお話を聞く機会があったんですが、合計特殊出生率をいかに上げていくかということと、バランスのいい人口構造、ピラミッドの話がされていて、世界の例をみるとフランスは以前かなり下がったらしいですが、いまでは相当上がっていると。医療の問題とか、教育の問題とか政策の部分の話もされておられましたし、国や県などの施策を打ちながらいろんな手はあるかと思いますが、後段でおっしゃいました中卒の子どもたちと高卒の子どもたちのポイントが女性が一番少なくなっているんですが、われわれ教育委員会との関わりが非常に重要になってくると思いますし、学べていい、子育ての環境がいい地域を西海市がどう創っていくのかという議論を重ねて、我々も関わって行けれ</p>

<p>総務課長 〇〇委員</p>	<p>ばなあと思ったところです。 他の委員さん方、何かありませんか。 〇〇委員が申されたことと関連するんですが、市教育委員会では高校の問題になると県立ということもあり語りづらい部分もあるんですが、総合戦略の12ページですね、②の高等学校活性化協議会というものが立ち上げられるということで、非常に期待するところです。</p>
<p>市長</p>	<p>何となく市内の高校を選ばないのかということには分かっているんですが、例えば大学進学の問題だとか、それからスポーツをやりたい子の想いとか、特色ある学びができるとか、一例ですが、英語をやりたいと英語科のある市外の高校に進学したりとかあるわけですが、早急にデータ化されて、それに対する対策を講じるということを期待します。 それと個人的な意見で申し訳ないんですが、西彼農業高等学校でやっている内容を学科の名称に反映させるような、学科名を聞いてどういう学びができるのか分かるようにすることも大切ではないかと思いました。 3つの高等学校がある中で、唯一実業高校の名前が出ましたが、食物流通科と農業科、園芸科につきましては、市からいろんな助成を行っています。例えば突然変異で出来た巨大なマンゴーですが、苗は姉妹都市の西都市から来ているわけですが、苗を増やそうと市より助成を行っています。ブルーベリーにつきましても、西海市の地質に合うブルーベリーの開発に助成を行っています。その結果、農産品の6次産業化に向けた取り組みとしてパンの商品化を先日行っています。ベースには茹で干し大根やニンジンなど地元の産品を使っています。わかりやすい市からの補助によって、学校運営にもプラスになっています。地元の高校生のみならず、市外からも通学していますし、ご存じのように、今度の国体でもウエイトリフティングにつきましても、全国トップクラスの成績を収めています。西海市内の中学校を出た高校生が全国トップクラス的位置にいる。もちろん指導者もしっかりしておられるということで、実業高校としては、学業面とそれからスポーツ両面の特色ある学校として今のところ安定的に入学者がいます。2つの普通高校につきましては、西彼杵高校につきましても、グループ教育の導入など特色のある教育をやっておられたり、大崎高校も当然学力向上に向けた教育を行っているわけですが、中高連携校の中学生の半分は出ていくわけなんですね。これが言われたように進学とか、スポーツの専門性とか欠けているので、なかなか希望どおりにいかず生徒数が減っている原因だと思います。特に普通高校2校については、そこらを解決する方策をとっていかねければと私は考えています。</p>
<p>〇〇委員</p>	<p>西彼杵高校の学びの共同体については、前回の教育委員会でも話をさせていただいたんですが、県内でも本当に珍しい取組だそうで、長崎大学の研究室の先生方もバックアップされておられるし、ゆくゆくは、まず近く</p>

に中学校がありますから、先生方にも是非ノウハウを一緒になって学んで行きたいと考えているようで、西海市内は大崎高で高校との連携という先駆的事例もあるわけですから、西海市内の高校も常に中学校や市と連携していただきたいし、そういった新しい学びの場があるということで、これは全国的にもアクティブラーニングという言葉が先行していますが、先駆的な取組、先進的な事例として力を入れていただくといいなと思いました。

市長

市内高等学校活性化協議会（仮称）の前段として、校長先生方と教育長、教育次長が何回か協議する場を持っていると聞いていますが、そのような場を発展的に校長先生方と砕けた話をして、お互い理解しあうということから始めていかないといけないと思います。交通アクセスの利便性を高めるいろいろな要望も来ておりますし、あるいは進学率を上げる要望も来ていますが、我々も少しでもフォローアップするんだから、市の言い分も聞いてくれというんじゃ交渉ごとになってしまうんでいけないと思う。お互い現実を見つめて、先生方にも納得していただき、私どもの想いも受け止めていただくように希望している。窓口は教育委員会がいいのか、市長部局がいいのか今後の課題として。隠岐の島の海士町の例もあるのですが、あれも一挙一夕になったわけではないと思うんですね。島外高校や県教委ともやりおうとと思っています。あそこまで行くまでの過程ではですね。ですから、私がスクラムミーティングでこの話題を出した時に、たまたま県の教育次長がおられたんですが、済んだ後飛んで来られたんですね。やっぱり1首長がですね、高等学校の今後の在り様について、知事部局とのスクラムミーティングの場で言うこと自体が普通はなかったらうと思うんですね。私も言っているのかどうか迷いながら、ついつい言ってしまったと。しかし悪い印象は受けていなかったと私を思っています。うちに限らず、松浦市やどこでも同じ問題を抱えているんですね。逆に五島とか壱岐・対馬は生徒さんが外に出ないんですね。問題は西海市とか松浦市とか平戸市とかです。西海町の生徒さんは佐世保市に意外と行っている。船の便が良かったり、親も安心して船に乗せたら、船で帰ってきますから。

〇〇委員

もう一つ、高校の特色づくりという点にかこつけてお話をさせていただければと思うんですが、農高の方にもですね、科としてはないんですが福祉コースというのがございます。福祉の心を学んでおられて、私の施設にも研修に来られたりとか、実際に就職された方もおられるんですが、今後の地域ビジョンを考えていくうえで、教育と同時に社会保障も大事な部分ですね。それと産業、3本の分野というものが非常に大事かと思うんですが、そういった中で、西海市の社会保障を担っている分野というのは、人口ビジョンの19ページを見てください。先ほど大手産業で大島造船所さんとダイヤソルトさんが出ましたけれど、製造業に入っていると思うんですけどね、医療・福祉を見てください。どうですか、男性を入れると2千人

近い人口が産業としてあります。国の資料にはありませんが、ここ5年間、医療・福祉分野のみが伸びているということで、他の産業を支えるという意味でこの分野は成長分野でありますし、人材確保が全国的に難しくなっていますが、人材をつくるという意味での特徴づくりも必要で、施設なども一緒になって、学校と一緒に人材を育成することもできるのかなあと思います。かこつけた意見ですが、社会保障の分野も考えていただければと思います。

〇〇委員

今の話に関連して、戦略の12ページのところですが、普通高校の方がかえってしんどい部分がありますが、市長さんもおっしゃったように、西彼農高は特色を持ってよそからも来る。①の市内中学校向け、学校説明会も大事だと思うんですが、逆に市外に向かってもこんな素晴らしい高校を持っていますよというような、多く来ていただくことで注目が集まって、市内中学生もそういういい高校が地元にあったのかって、特に農高は今の福祉のお話もありますので、外に向かってアピールをしていただくと市内高校の活性化につながっていくのかなあと期待して言わせていただきました。

市長

人口ビジョンのうち19ページの〇〇委員さんからの件で何か事務局ありますか。

政策推進課長

ありがとうございます。それぞれ大変貴重なご意見でして、確かに医療・福祉の就業者数は西海市だけではないんですが、全国的に増えていて、まだまだ不足しているということは認識しています。特に都会では労働条件等で辞められる方が多くて、人材確保に苦労しているということも聞いています。そういうこともありまして、特に女性の職種として、考え方によってはいい職種ではないかと考えておりまして、先程言われました若い女性の流失、特に高校卒業してからの流失をどう食い止めるかということにも絡んでくるんですけど、医療・福祉に就いた人には奨学金を免除しましょうというような構想も含めて、なるだけ地元の方を優先しながら育てていきたいと思います。また、国の制度等にも関わってくるんですけど、ビジョンの中で説明はしなかったんですけど、ビジョンの22ページにありますが、その中の職種別有効求人・有効求職の状況の2番目に有効求人数が有効求職数を上回っている職業のなかにあるんですけど、事業者としてたくさん欲しいんだけども応募者が少ない職種の一つとして看護師、保健師、助産師や社会福祉の専門的職業、介護サービス業というところが、西海市のハローワークにおいてこういう状況になっています。市でもそうですが、教育においても取り組むべきものと考えています。希望が持てる職種であるというイメージ作りもこれから必要であると考えています。農高の市外への説明というところですが、今度の総合戦略の中でもポイントになるところだったんですけど、説明はしなかったんですけど、最後の方の32ページ、シティープロモーションの強化というところがございます。西海市の認知

度、ビジョンの方になるんですけど、西海市のブランド力というものがございませぬ。①の西海市の認知度ですが、全自治体の中で706位ということでかなり低いんです。全国的に見たら、例えば東京都とか北海道に行ったら、西海市ってどこという認知度となっています。やっぱりこういう状況ではいくらよそから来てくれ来てくれと言ってもなかなか難しいところがあり、自治体としてもしっかり全国的に理解をしてもらうことが必要ですし、いろいろな事業者さんと一緒になって西海市のブランド力を高められたらと思っています。まずは、これについて力を入れていく必要があると思います。

〇〇委員

シティプロモーションの件なんですけど、民間企業ですら数億円かけて商品名を覚えてもらうことをやっていて、自治体がやっている今の手はゆるキャラとかB1グランプリとかなんです。クマモンとかあのレベルになれば別なんでしょうけど、他はほとんど認知度がないし、忘却率で言えばすぐ忘れられてしまうんですよ。しっかりJTBがデータを出してますけど、よっぽどの起爆剤がないとこれは覚えていただくことは難しいと思うんですよ。で、そうした時に実は、佐世保市もほとんど認知度がないんですよ。同じようなもんですよ。福岡でサンプルとった時も西海あたりですかね、西海市を指してるわけじゃなく、この辺が西海なんですよ。福岡から見れば。で、実はご存じのとおり、観光入込が増えたのは佐世保ですよ。長崎を抜きましたけども。でもほとんど東京の人は、ハウステンボスに行くというのは、長崎に行くと思っているんです。佐世保に行くと思っていないんです。っていうふうに、佐世保でもそのレベルなんですよ。船がいっぱい来ていてハウステンボスはだいぶ増えましたが、そういった中でお聞きしたいのが、周辺との連携というのも、これは特に考えていかないと、例えば佐世保と一緒にいろんなプロモーションやっていくとか、そういうのもいいと思うんですよ。単体では非常に厳しいと多分課長もそう思っているんでしょう。

政策推進課長

正にそのとおりでございまして、無理やりやたらと全国的に名前を売ろうとは思っておりません。やはり、ターゲットはきちんと絞っていかないと、特に西海市の場合は、市外への流出の大半が県内が多いんですよ。ということであれば、そこをターゲットにせんばいかんたろうということで、まずは県内で、年齢層や男女絞り込みが必要かなと思うんですけど、そういうところと、ターゲットに応じた戦略や宣伝の仕方などを整理していかないと無駄な宣伝経費ばかり掛かってしまいますのでそこら辺を注意してやりたいと思います。

〇〇委員

ま、僕が言いたいのは周辺地域と是非連携をしていただきたいということ。

政策推進課長

これまでも県北地域との観光の協議会もございまして、佐世保市ともい

教育長	<p>ろいろな連携を行っております。長崎市の方とは弱いところがございましたので、特に今度の世界遺産、炭鉱遺構であるとかキリスト教関連遺産につきましては、長崎市との連携も十分とっていかないといけないと思っています。佐世保、長崎いろんなところと連携していかないといけないと思っていますし、目的に応じた連携が必要であると思っています。</p>
総務課長	<p>先ほど〇〇委員さんから社会保障の医療・福祉分野が増えているというお話がありました。先般〇〇委員さんがDVDを作ってくださいまして、施設の紹介というよりも施設に働いている若い職員が、輝いて、職場に誇りを持って働いているかわかるものを各学校にも寄贈いただきました。私たちとしては、西海市の介護職の職場に若い人たちが地元に残ってそういう仕事に就いていただくような機会が拡大していけばいいなあという思いも含めて、総合戦略 17 ページにはスーパーバイザーによるキャリアプランニングなどの取組、地域と一体となった後継者育成というものの中にはそういうものも含めているつもりです。そういう視点で盛り込んでいます。</p>
〇〇委員	<p>重要な議題で、3番目の議題にも触れていただいたところなのですが、総合戦略に関しまして、福田先生、川南先生いかがでしょうか。</p>
〇〇委員	<p>立派な総合戦略が出来ていまして、私も詳しくは見れてないんですが、私たちが西海市に住んでいて、他の県に研修に出たり、遊びに行ったときに西海市を紹介するとき、どこを紹介したらいいのかなと思うことがあります。西海市はこんなところがいいよと言うよりも、私たちが西海市を愛してるということをいっぱい発信していくことが必要だと思います。それは行政レベルじゃなく、教育レベルじゃなく、民間レベルの中で発信できるように気掛けているし、友達と話すときもそのようにしています。行政も一生懸命になって、こういうことを切羽詰っているのやっているとありますが、私は、まだまだ西海市のことを知らないところがいっぱいあって、公民館講座等には積極的に参加し、地域のことを知ろうと思っていますが、そういう小さいことも大事だと常々考えています。そういう目線で西海市をアピールしていきたいと思っています。</p>
〇〇委員	<p>まずもって2060年の3万人という数字に驚いています。目標はあくまで高く掲げていいと思いますし、冒頭に市長が「目標には自信があります。」とおっしゃいましたので、但し、2060年には私は生きておりません。この時代にひ孫が成人するころではないかと思いますが、それまで、市民として協力をせんばいかんと思いますが、先ほど、女性、福祉そのような言葉が飛び込んできました。福祉・医療関係と女性をすぐ結びつけたところに問題ありかなあと思ったんですが、19ページのグラフの中では、建設業、大島造船所には男性が多くて、医療・福祉関係は女性の働き手の比率が多いときれいに分かれています。この垣根を取っ払わないと、その認識を取っ払って、医療・福祉関係にも若い男性も就いてほしいと思いますし、現</p>

に大島造船所でも、若い女性の方々が現場で働いておりますし、そういう心の垣根を取り払っていただいて、若い方々が就労する西海市になればいいなと思います。もう一点。総合戦略の12ページには、「市内中学生に周知することで、」と記載されていますが、中学生はもちろんですが、保護者向けの説明会を開催した方が私は効果があるかと思います。卒業生は今じゃないですが、高校を卒業して市内で働いている立派な方々がいますから、市内で頑張っているということを発信したら一番いいんじゃないかと思います。この件は、3番目の議題にもできますので以上です。

教育長

これは、保護者向けの説明会を意味していますが、文言が不足していますのでご理解ください。

〇〇委員

先程教育長からご紹介していただきましたが、市長にも拝見していただきましたDVDの件ですが、福祉の仕事を誇りだとか、やりがいなどをお伝えしたいと思って作らせていただいたものですが、実は地域づくりも一緒なんだと思うんですね。人が足りんから関わってよ、入ってよって言われたら嫌ですよ。福祉の仕事って素晴らしいんだよねって思って来られる。地域も全くそうだと思うんです。どこの市町村も定住促進とかです。いろんなプロモーションに躍起になっている。やっぱり自然と輝いているまち、楽しいまちというのは自然とみんなに知られていくというふう思うわけです。まち・ひと・しごとというのは好きじゃなくて、本当は、夢づくり・人づくり・ふるさとづくりなんじゃないかと思います。夢がないとやっぱり駄目だと。ご存知の鹿屋の「やねだん」。こころ超高齢化集落ですけども、自分たちでよかごとしようって言って、今は行政の人が修行に行ってますよね。何日間かね。そして地域づくりを学んで帰るといことで、僕らがちょうど知っているときは、焼酎造りをやり始めたところで、行政に任せとかれんと、自分たちで地域を良くして行こうって、そしてあれだけのことをされて、その資金でもって、高齢者のためのカードを作ったり、お買物券にしたりとか、いろんなことをされておられる。正に、自治意識を高めていくことが絶対大事だし、そこには教育も産業も全部関わっていくと思うんですね。ですから、是非いろんな施策がありますし、これは一つのアプローチ、具現化するための手法であろうと思いますけども、まずは暮らしている人たちが、ここでどういう風な暮らしをするのかということをお話できるような一つに指針・ビジョンとして出されていると思うんですが、これから魂を入れる作業となっていくかと思うんですが、そこに市民がいる、そしてまた子どもたちがいるということは大事で、我々はおっしゃるようになくなるんです。これから20年後、30年後の社会を作っていくのは今の子どもたちですから。そういった視点も入れていただきながら、充実したものにしていただきたいなと思います。

〇〇委員

一つだけ今に関連して、毎年少年の主張とか社会を明るくする運動で

子どもたちの弁論大会がありますが、その中に毎年のように自分の祖母・祖父等に接してきて、介護の仕事に就きたいという子が必ずと言っていいほどいます。それは、今本当に都市化している社会では、なかなか現れない心であり、西海市の強みだと思いますし、そんなことを大事にしていければと思います。

市長

まず、市内の中学生を地元の高校にいかにして通っていただけるように、そういう希望が持てるような状況を作っていくかということと同時に、そのことによって子どもたちが一旦外に出るかもしれないけれども、将来的な西海市の人口増につながる第一歩じゃないかなと思います。西海市には大学はありませんけれども、あったにこしたことはないですけども、どっかの大学を出て、そして西海市に戻ってくるという環境を義務教育から高等学校の教育課程の中でつくっていくということが、将来の若い人材を確保していく一つのキーワードになるのではないかと私は思います。今の段階では、まだまだ西海市の認知度は言われているように高くはございません。私の名刺には長崎県西海市と書いています。本当なら西海市でいいんですね。長崎市長さんとか佐世保市長さんは長崎県は省いています。大村市長さんも平戸市長さんも省いています。五島市も書いとらんし壱岐・対馬市も書いとらん。僕だけ長崎県を入れている。これはこの数字に表れているように、認知度がまだまだない。佐世保市や西海国立公園と勘違いされている節がある。ですから、傾向として、高校生から大人まで西海市から佐世保、長崎或いは県外に出ている今の状況ですよ。構図を見てみると。ところが、西海市の魅力はそういうもんじゃないと思います。私も市長になって初めて西海市の魅力を勉強させられたと思っています。皆さんの中には今でもわからんとおっしゃる方がいますが、西海市民が西海市の魅力を分っていない方が相当数いると思うんです。地域資源は、市長さん方は言いますよ、西海市は地域資源はすごいと、製造業から農業から歴史遺構がありますから。ですから、市長さん方は西海市の魅力をわかっていたらいます。私も市長になって初めて西海市の魅力を肌で感じておりまして、そう遠くないうちに西海市の上の長崎県がとれる時期が、一日も早く来るようにPRをせねばいかんと考えています。この前、市長会で鍾乳洞サミットを奥多摩で済ませてから、立て続けに市長会の研修がありまして、世界遺産の富岡製糸場に行きまして、その日のうちに石川県に移動しまして、金沢市で市長の講演を聞きました。本もたくさん出しておりまして、公務は副市長2名に任せて、金沢市にいる時間が少ないと、講演は自分のPRじゃなくて金沢市のPRをしよるわけです。これは勉強になりました。私は講演力が乏しいからマネすることはできませんが、少なくとも市長の仕事はそういうことが必要だと思います。そういうことによって、西海市の上の長崎県が取れるということになると思っています。

世界遺産登録の問題は政府の推薦をいただいております、イコモスの調査も終わりましたので、まず9分9厘大丈夫だと思います。そうした場合に、西海市には構成施設がないわけですね。ところが、教会群の以前の歴史があるわけです。横瀬浦とか中浦ジュリアンとか或いは隠れキリシタンの歴史も実際ありますので、むしろこれを機に、西海市にもともとあるそういう歴史遺産というものが生きてくるんじゃないかと思っております。それと七ツ釜鍾乳洞一帯の化石の森です。これは、世界遺産登録になる要素を持っていると思っております。したがって郷民の皆様方にもお願いして、あの一帯を市が確保すると。そして市ができない部分については、まだまだ言える段階ではありませんが、民間の力を借りて世界遺産の登録を目指す、そういうことは可能だと思います。それから、オランダ村だって、Bゾーンまでやっと思途がつかしました。あとはCゾンプラスアルファですよね。Cゾンプラスアルファも、ある程度方向性が出る時期が参りました。まだ発表の段階ではないと思っておりますが。そうすると、ハウステンボス＝オランダ村、カジノは西海市にはできません。ハウステンボスにできます。波及効果は西海市に及び、そういう施設ができる可能性があります。まだ可能性ですよね。そうすると西海市の地域資源、歴史遺構からハウステンボスの前身であるオランダ村の大村湾のあの景観を利用した世界遺産に匹敵するようなものがピーアールできるんじゃないかと思っております。認知度が高まってくるんじゃないかと思っております。住みたくなるまちとしては西海市はかなり認知度が高いわけですから、西海市に住んでみたいと思う方が多いわけですから、これは鬼に金棒だと思うんですね。そのためには、教育費に掛かる保護者の負担を軽くする、医療費の問題、来年の4月から無料化するため条例化を図っているわけですが。そういうなかで、認知度が上がっていくんじゃないかなと思っております。総合教育会議というものは、今後の総合戦略を練る上において、義務教育から高等学校、そしてそこを卒業した大学生まで含めた重要なことを協議する会議ではないかと思っております。そういう意味でよろしく申し上げます。なかなかですね、これからの夢はたくさんございますので、子どもたちに夢を託することをやるのが私たちの仕事ではないかと思っております。それは教育だと思うんですね。

総務課長

まだまだ話も尽きないんですが、私達が議題を欲張りまして窮屈になったんじゃないかと思っておりますが、1点目の議題につきましてはここで終了させていただきます。

ここで、5分間ほど休憩を取らせていただきます。

(休憩)

総務課長

それでは、2番目の議題である「西海市の現状における教育課題について

教育長 総務課長	て」ということで、教育長よりご説明をさせていただきます。 (配布資料により説明)
〇〇委員	ただ今ご説明いただきましたが、いくつか課題等もございまして、どの課題というわけではありませんが、皆様からご意見をいただきたいと思えます。
市長	先ほど教育長からICTなどのインターネット環境についてまだまだ遅れているという報告がありましたけれども、こういった地方だからこそ、情報は一早くだとか、インターネットによって何ら都心とは変わらない、前の議題にかかわる話になるんですが、都市の人でもいくらでもここで仕事できるわけですよ。だけど実際そう謳いながら、西海市自体の光ケーブル網の整備状況というのは遅れているなあと思いますが、何とかお願いしたいと思います。
〇〇委員	<p>言われていることはよく分りますし、西海市全体に光ケーブル網を整備すると予算面とのにらめっこをかなりしなければならないですし、必要になってくるんですね。ですから、タブレット等の活用につきましては、これはもう問題ないわけですからね。光を全市内にくまなく張り巡らせるということについては、大きな課題だと認識しています。前向きに検討していますが、一挙に行かない部分もあるかと思えます。企業さん方につきましては、特に大島造船所とか電源開発さんだとか早い段階で既にNTTの裁量でやっているわけですが、私どもとしましては、ここまでケーブルメディアを西彼町から引いてきているわけです。大瀬戸地区につきましては、雪浦から多以良まで利用できる状況になってきています。あとは西海町、小迎から西海町一円、ここがブロードバンド未整備ということで、これは議会の中でもいろいろ議論をしていただいております。徐々にそういう方向でもっていこうと思っています。</p> <p>学校教育の中でやはり学力の問題を集中的に西海市としては取り組んでいると思うわけなんですけど、やはりそのためにはいろいろな学校改革というんですかね、そういったこともやっていかなきゃならないですし、家庭教育という意味でも保護者の皆さんとの連携ということも大事になってくるかと思えますし、先程市長言われた海士町っていうのは、正に改革をされたところで、それが何十年も掛かったかってそうじゃないんですよ。10年掛かるかもしれない、15年掛かるかもしれないけど、いつかどこからか始めていくということが重要になっていくわけで、そのためには、既存の教育行政の運用だけではなくて、海士町であれば国際交流やったり、地域交流やったり、大学巻き込んだり様々なことしてますし、行政の中にも民間人を当初入れて、西海にも来てもらいました岩本君私は個人的にも交流があるわけなんですけど、民間人を入れてそこから大きく変わってきたといういろんなことがあります。是非そういう意味でも、西海市でも様々</p>

市長	<p>な取組の中で、教育委員会だけじゃなかなか難しい部分も一緒になって、やっていただければなあと思います。</p> <p>その地域の不利な部分をうまく、負の遺産をプラスに転化し、やっとなるわけなんですね。離島も離島、そういう、離島の抱える問題を解決を図るために、キャッチフレーズである「無いものは無い」何でもあそこはねあるんだと、私ども行政、教育委員会もそうなんですけど、職員の意識改革ですよ。製造業とこういった事務力を出した仕事っていうものは、自ずと中身は違いますけども、今まで二人でしよった仕事を一人でできるように、そういう意欲で取り組んでいると。しかも、その方々が市民とタイアップしていくと、行政だけではもうとてもじゃありませんが、難しい時代になっていますから。やっぱり市民協同っていうのは、市民にもその気になっていただいて、一緒になって取り組んでいかなければ、私たちが描いてる 2060 年の 3 万人というのは絵に描いた餅になってしまうと。総力挙げて取り組んでいくと。教育にしても、まちづくりにしても私同じレベルでやっていかなければならないと思います。そのためには、やはりいかにして西海市に魅力を感じて認知度を高めていただいて、そして西海市のために骨を埋めようかという I ターン者を募るそういう環境を作っていくことが大事じゃないかなあと思います。海士町のように教育関係、町役場もそうですが I ターン者が多いんですね。優秀な職員が多いんです。これはうちの職員が優秀ではないということではないんですが、優秀な職員が多いんです。アイデア、うちはそういう制度は設けていますが、なかなか本気度でアイデアを提案してくれる職員がまだまだ少ない。例えば、平戸市の黒田市長が本まで出したですよ。あれは、係長ですよ、ふるさと納税制度を考えたのは。やっぱりこの会場に並んでいるのは、部長、課長など後のなか人たちですが、問題は中堅職員ですたい。係長から課長補佐、このクラスの職員が、本気度で西海市を良くするためにはどういったことをしたらいいのかということ寝るのを惜しんでも考えてくれる職員を作っていく、これが海士町のやり方ですよ。首長も教育長も皆さん方もそうなんですが、あえて、県当局にもしつかりものを言っていくと。これはちゃんとしたバックアップがあるから、そういうことができるんじゃないかと思うんです。</p>
総務課長	<p>教育委員長がスポーツ推進審議会の答申を受ける予定の時間となりました。ここで暫時休憩します。</p> <p>(休憩)</p>
総務課長	<p>「西海市の現状における教育課題について」お話をさせていただいておりますが、予定時間も迫ってきておりますので、次の議題の「市内高等学校への支援について」も先程来から出てきておりました。資料にありますのは、3 高等学校長連名で出された要望の概要をまとめておりますので、そ</p>

○○委員	<p>れらも見ていただきながら、これも含めてあと 15 分程度ご議論いただければと思いますのでよろしくお願いします。</p>
教育長	<p>先程随分総合戦略の中でも高校に対する特色づくりというのは話出てましたけれど、正に説明会であったりとか、それぞれの特色の情報発信ですとかそういったことは大事ですよ。3校の校長先生方にはお会いしたわけなんですけど、ホントにそれぞれ熱い想いを持ってですね、取り組んでおられるのが印象的でした。そこで、この要望書に対し具体的には市の方では検討してらっしゃるんですか。</p>
○○委員	<p>この件ですぐに回答がいるという類のものではないですね。市内の3つの高校の校長先生方が、県内のいろんなところを見てきたなかで、意見をまとめていただいたというふうには受け止めております。具体的にという風なことではありません。ただ、こういう風なものを活かして総合戦略の中に反映をさせていただきました。</p>
○○委員	<p>人口動態見ると間違いなく中学出る時、高校出る時に人口がグーンと減ってるわけですから。先生方が危機感を持っているのが、40人だからぎりぎりだと。これ40人切ってしまうと一気に駄目になっちゃうとおっしゃってましたけれど、先程から50パーセントっていう数字が出てましたけれど、そこは何か目標をお互い共有しまして、それぞれできることを何か手立てしていければなあと思いますけどねえ。</p>
市長	<p>今から立ち上げられる協議会に期待する部分もあるんですが、例えば大崎高校の場合でも、大島造船所という大きな企業があつて、そこへの就職するパイプを太くする上でも、前いろいろな理由で取りやめになったと聞きましたが、例えば造船科とか工業科とか行かなくても、それに特化して造船に働いて即戦力になるような学びや技術を身に付けられるようなコースがあつてもいいかなあと思います。それと外の高校に出るのは少子化ということが影響していると思います。子どもが少なかったら、その子のために親はどっとお金が使えと、よその高校から行ってもどうにか支援ができますと。</p>
○○委員	<p>確かに今はそういう傾向にあると思います。</p> <p>そういう意味で、少子化対策が地元の高校のためになっていないことも考えられます。</p>
市長	<p>教育委員の皆様は、学校教育の中でも少子化で生徒さんたちが少なくなってくると、教職員の数も減らされるわけですから、悪循環ですもんね。</p>
○○委員	<p>教育の質が落ちると言われますしね。</p>
市長	<p>適正配置はいつごろまで続きますかね。軌道修正は必要ないでしょうか。</p>
教育長	<p>今年度中は、協議は重ねさせていただきたいと思います。協議によって、実施時期とか或いはするしないとかそういうことも見えてこないかなあと考えています。今の時点では何とも言えません。</p>

〇〇委員	<p>高校進学率は、市内で何パーセントぐらいなんですか。市内、市街含めて。</p>
教育次長	<p>全体の高校進学率ということですか。</p>
学校教育課長	<p>平成 25 年度実績ですが、卒業生 254 のうち、進学の数数が 253 で、就職は 0、未定が 1 となっています。</p>
市長	<p>高校のキャンパス制度という話が以前有ったんでしょ。</p>
教育次長	<p>県の制度としてキャンパス制度ができて、それを見ている限り大崎高校が西彼杵高校のキャンパス校になるんじゃないかという危機感が出て、その時に大島中と崎戸中の適正配置の話があり、その際に大崎高校も関係するということで、キャンパス校にならないように中高連携校にしてほしいということが地域の本音だったんですね。この前の議会で、キャンパス校という選択肢もあるんじゃないかのご意見を議員さんがおっしゃられたんですが、あの意見は私たちが考えていることとは違う意見です。</p>
市長	<p>かつてそういったことがあり、中高連携校という選択をしたということですね。ただ、中高一貫教育では、大半の大崎中の生徒さんが大崎高校に行くのが本当なんです、他の中高一貫教育校を見ればですが。</p>
教育次長	<p>年によりますが、60 から 70 パーセントの生徒さんが進学しています。</p>
教育長	<p>平成 25 年度が約 57 パーセントで平成 26 年度が 69 パーセントとなっています。</p>
総務課長	<p>予定した時間を経過し、市長の次の予定がありますので、申し訳ございませんが、このへんで閉会といたします。最後に市長より閉会のご挨拶をお願いします。</p>
市長	<p>(市長開会あいさつ)</p>
総務課長	<p>以上をもちまして、第 2 回西海市総合教育会議を閉会します。 (閉会)</p>